資料１

第４回　渡川流域を対象としたタイムライン検討会

議事要旨（案）

日　　時：平成 29 年 3 月 22 日（水）　15:00～16:00
場　　所：四万十市立文化センター　１階大会議室
議　　事：
（１）開会
（２）第 3 回検討会の議事要旨
（３）タイムラインについて
・平成２８年９月台風１６号の振り返り結果
・想定ハザードの見直しについて
・現行タイムラインの課題について
・タイムラインの運用について
（４）今年度のスケジュール
（５）閉会

■開会挨拶【高知大学 防災推進センター 副センター長 原忠座長】

今回で通算 4 回目の検討会ということで、いろんなことに内容が煮詰まってきた。平成 28 年 9 月の台風 16 号によりタイムラインの発動が必要になり、やってきたことが活かせる機会を得た。試行版ができて課題や不足の点を明らかにする良い機会でもあった。WG では住民の避難訓練や情報伝達の演習も実施され、全体を通した試行により今後実践的な活動に活かされることになろうと考える。ただこういうものは PDCA サイクルであるため、できたものを評価し、議論して課題を抽出してそれをバージョンアップしていく必要がある。

このあと今年度の取り組みを紹介いただき、実践的なものに取りまとめられるようにしていきたいと思う。また、渡川のタイムラインは、四国のリーディングプロジェクトであるので、他地域に広げる第一歩として、煮詰まった内容を情報発信し、市民と連携していくことも考える必要がある。第 4 回ということで一旦とりまとめを行い、次回は実りあるように住民をまきこんでいくことも考えて、ご議論いただき、実りあるものにしていければと考えいる。

■第 3 回検討会の議事要旨について【事務局】

事務局より、第 3 回検討会の議事要旨について説明がなされました。
委員からは、修正意見がありませんでしたので、正式な議事要旨とされました。

■今年度の取組の報告【事務局】

事務局より、今年度の取組として、平成 28 年 9 月台風 16 号の振り返り結果、情報伝達演習の結果、住民避難訓練及びアンケートの結果、広域避難の課題、流入規制の課題、現行タイムラインへの反映について説明がなされました。

今年度の取組全体に対して、関係機関から気づいた点やご意見を発言していただき議論を行いました。

中村河川国道）流入規制については、現実として、何らかの方法で何処が通れないかといった広報が市民向き住民向きに必要と考える。
気象台）住民が避難をしないことに対し、今回の避難訓練に合わせて出前講座をさせていただいた

ことは大変良かったが、合わせて防災教育により防災意識の向上を図る必要があると考えており、気象台としてもできるだけ協働していきたい。

いろは館))職員の意識は、訓練が単発的であり意識の向上には繋がっていないのかなと思う。ただ、利用者さんも参加できて、３名が乗り込むのに５分もかかったというデータがとれたことはよかった。今回の３名は歩けて比較的速い方なので実際にはもっとかかると思う。

原座長）時間軸で考えることは非常に有効と理解いただけたのではと思う。アンケートを通して、一番問題なのは避難行動に直結しないことと思うが、事務局として考える課題はあるか。

事務局）別の地域でもアンケートをとったが、同じような傾向であり、避難する意識はあるが、行動に移せないことが課題と考える。

原座長）そうすると避難行動に関しては次年度以降の課題にもなると思うが、こういったところに視野を広げて議論していく必要があると思う。四万十市さんのご意見はあるか。

四万十市長）一番の課題は、計画作った後に、住民に周知徹底をはかること。特に体が不自由な方に対しては、タイムラインを活用して穏やかな時に最悪な場合を想定して逃げる訓練を今からする必要があるが、市も入って意識の疎通を図りながら地道にやっていく以外に方法はないと思う。

原座長）マイカーによる避難は、一時避難としては有効であるが、課題があるのでは。

四万十市長）広域避難は、このような災害時には近隣市町村も同じような状況になると思うので、命を守ることに重点をおいて四万十市内の中で一定の避難の目途はつけたい。マイカーによる車中泊を考えた場合、エコノミー症候群の課題や 8 千台分の駐車場を確保すること、市役所内に一時的に避難していただくことも含めて、また広域避難も含めて、いろんな角度から検討して参りたい。

原座長）住民に浸水想定区域図の周知徹底など知識を教授いただくとともに、検討していただきたいと思う。また、きめ細かな情報提供に関し、冠水場所の情報など県と国で連携した情報発信も必要かと思うが、考えはあるのか。

幡多土木）道路規制については、四国全体で情報共有しているが、それを住民に如何に伝えるかがポイントである。

■タイムラインのとりまとめ及び今後の取組について【事務局】

事務局より、現行タイムラインの課題を含めたとりまとめ、今後の取組について説明がなされました。

検討会発足から２年が経過したことから、一旦タイムラインについて取りまとめるものとするが、時間の都合から関係機関には個別に持ち帰って確認いただき、気づいた点を事務局に問合せいただくこととしました。

また、今後の取組について、関係機関からご意見をいただき議論を行いました。

中村河川国道）住民意識の向上には至っていないが、リーディングプロジェクトとして公共交通機関、ライフライン、要配慮者施設も加わった検討を時間軸を共有した形で行ってきた。他の地域は避難勧告等の情報発信を行うためのタイムラインは作成しているが、渡川流域をモデルとして四国全体に水平展開していきたい。

四万十市長）すばらしいとりまとめをして頂き有難い。時間軸を共有できたことは一つの大きな成果だと考える。今後どのように住民と情報共有していくかである。現在、「川とともに生きるまち」というキャッチフレーズで産業振興・発展を図っていく予定であり、ハザードマップも作成中である。マップができた時点で地域に入り、地道に努力してまいりたい。（中座）

原座長）地域防災計画には反映させるのか。

四万十市地震防災課）3 月末に防災会議を予定しており、タイムライン、想定最大の洪水浸水想定区域図に関して報告する。地域防災計画への反映に関しては、今のところ未定である。ハザードマップができてからになる。また、防災士会を発足し、各地区の自主防災組織の活性化を図っていく。

原座長）速やかに取組を進めて欲しい。地区タイムラインについてはどうか。

副市長）大きな形はできてきた。各地区の特性を踏まえてブレイクダウンしていく必要がある。地震・津波もあわせて避難所運営マニュアルを作成している。それらとあわせて地区別で考えて行きたい。関係者間のネットワークができたので、タイムラインのブラッシュアップについては、こういった会議を通じて継続していきたい。次の出水期にはタイムラインを確認しながら準備を進めていきたい。慣れていくのが大事だと考える。

原座長）本検討会は継続するのか。

事務局）継続する。

気象台）タイムラインの時刻を設定する必要がある。-120H から発動するとなると意識をもって行動する必要がある。

幡多土木）振り返りで対処療法的になったのは岩田地区の局所的な話である。全体としてはタイムラインに沿って対応した。岩田地区の基準水位を出水期までに設定する予定である。

原座長）各機関にアンケートやヒアリングを実施し、地区タイムラインを作成するにあたってどのような情報が必要かを精査して頂きたい。住民にとって本当に必要な情報を確認して欲しい。情報の質のレベルが違うと考えられる。最終的には自助が重要であるが、関係機関として具体的にどのような支援ができるか情報提供して欲しい。

事務局）垂直避難は 1 時間で可能であるが、ヘリで救出する必要がある。立ち退き避難を行っても 1 日から 1 週間は家に帰れない。住民に理解を得るためには、より具体的な説明を行う必要がある。資料 3 の P34 にリードタイムを入れる必要がある。行政間は時間軸を共有できているが、住民レベルで見える化して欲しい。防災士会の活用等、市が中心となって広げていきたい。

原座長）情報だけ与えても避難行動を起こさないことが一番の課題である。この課題を解決するための方策を地区タイムラインに落とし込んで行きたい。

副市長）実務レベルの WG 会議を年度明けのなるべく早くに開催して頂きたい。異動もあるので関係機関が顔を合わせておくのが大事と考える。リンクを張るだけでも良いので、各機関の情報を集約するためのポータルサイトを立ち上げて欲しい。

原座長）タイムラインのとりまとめ、次年度以降の取組方針については了承する。

■総括【高知大学 防災推進センター 副センター長 原忠座長】

この 2 年間で機関をまたいだタイムラインはできた。作って終わりではなく有機的に使っていかなければならない。そのためには連携を継続することであり、訓練やワーキングを継続することが重要である。市民に落とし込んで行くためには、災害を知るところからスタートしなければならない。浸水想定を周知する活動から始めないと前に進まない。また、備えるための行動も必要であり、学習会などを密に開催することによって浸透させていく必要がある。避難したときに耐える方法も考えなければならない。関係機関が時間軸を意識して実際に災害時に対応する必要がある。机上の取組では実践的なものにはならないので、訓練等を通じて直せるところは直していって欲しい。

■閉会

以　上